

第7章

文部科学省における女性のキャリア形成支援に関する学習機会充実の取組

高口 努

1 はじめに

平成15年10月に出された文部科学省における「女性に多様なキャリアを支援するための懇談会」第2次報告（女性のキャリアと生涯学習の関わりから）において、経済的価値と結びついた職業生活の面が「見える価値」として評価され、家庭生活、地域活動、学習等の経済的価値と結びつきにくい活動は「見えない価値」として評価されにくい現状であることを認識し、「見える価値」と「見えない価値」が結びついた個々人の生活歴の結果、生涯の意志的な設計の道のり全体を「多様なキャリア」として包括的にとらえ、生涯学習社会の実現により、様々な経験を主体的に選択し、「見えない価値」を含んだ多様なキャリアを持つ人を後押しする仕組みが必要であると提言がなされている。

私は、平成20年7月から同23年7月までの3年間、文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課に勤務した。国においては、内閣府男女共同参画局を中心として、これまでに3次にわたる男女共同参画基本計画を策定し、国全体で男女共同参画社会の実現に向けた諸施策を推進している。文部科学省はその一翼を担っており、特に生涯学習を含めた男女共同参画に関する学習機会を充実するために、様々な事業を推進してきている。

そこで、これまで文部科学省において実施してきた女性の多様なキャリア形成を支援するために実施した事業を振り返るとともに、当該事業の成果として、事業の委託を受けた団体がその後どのように発展してきているかを具体的に検証することとする。また、女性のキャリア形成支援のための学習機会充実のための事業として、近年、「女性のライフプランニング支援総合推進事業」を推進し、本事業を通じて女性のキャリア形成における「ライフプランニング支援」の重要性を広め、その学習機会の充実を図ってきているところであるが、当事業で開発した女性のライフプランニング支援のための学習プログラム等の成果を検証することとしたい。なお、本稿の意見にわたる部分は筆者の私見であることをお断りする。

2 女性のキャリア形成支援に関する学習機会充実のための事業

各事業の概要

平成8年度から12年度まで、男女共同参画社会の形成に向けて、新たに、社会人予備軍であり、将来家庭を形成し親となる青年男女を対象に、大学等の高等教育機関や生涯学習関連施設等を拠点に、家庭、職場、地域における男女の共同参画に関する学習機会を提供するための実践的な調査研究の事業を委嘱し、男女が多様な役割を担い、自らの人生を主体的に選択し展開していく能力の育成を図ることを目的として、「青年の男女の共同参画セミナー」を実施した。

平成11年度から13年度までは、女性団体・グループが、男性とのパートナーシップを図りつつ、男女共同参画の視点から地域づくり等に参画する事業を推進することにより、女性のエンパワーメントの促進に資することを目的として、「女性のエンパワーメントのための男女共同参画学習促進事業」を実施した。

平成14年度から16年度までは、女性と男性がともに自立し、多様な働き方、生き方を実現するとともに、対等なパートナーとして、豊かな人間関係を築

Ⅲ プログラム開発

きつつ、少子高齢化や男女共同参画の問題に柔軟に対応できるよう、主に男性の家庭・地域生活の両立を支援するための学習事業及び女性の社会参画を支援するための学習事業を委託することにより、家庭・地域における男女共同参画に関する学習機会を整備することを目的として、「男女の家庭・地域生活充実支援事業」を実施した。

平成16年度から18年度までは、豊かで活力ある21世紀の男女共同参画社会の形成に向け、男性も女性も共に家庭、地域社会、仕事に参画し、責任を分かち合うため、女性が社会で十分能力を発揮し、多様なキャリアを形成するための支援策についての実践的な研修等を行うモデル事業を実施し、その成果の普及を図ることを目的として、「女性のキャリア形成支援プラン」を実施した。

事業の成果

上記の各事業においては、男女共同参画に関する学習機会の整備や、女性の多様なキャリア形成支援において大きな成果があったが、一つの実例として、平成14年度において実施した「生涯にわたる男女共同参画学習促進事業」の受託団体である、「NPO法人やまがた育児サークルランド」を紹介することとする。

NPO法人やまがた育児サークルランド（以下、サークルランドという）は、もともと地域の子育てサークルを集めてネットワーク化するために、いくつかの子育てサークルのメンバーが集まって「育児サークルリーダー研修会」を開催していたが、このネットワークが基礎となって、平成10年3月に発足した。

サークルランドは、平成14年度に文部科学省の委託事業を受託し、子育てフォーラム、交流と学習の広場、ジェンダーに関する意識調査を行い、相対的に3世代同居・大家族が多い山形において、子育てに対する女性＝母親の意識を変えていく取組を行った。

本事業の受託は、母親によるサークル活動の活発化につながり、サークル

ランドに登録する育児サークル数が発足当時の16から28に増加したことに加え、団体・組織としての成長をもたらし、事務遂行面での能力向上に寄与しただけでなく、県内各地の自治体や団体との関係の構築・強化につながり、関係機関・団体とのネットワークが飛躍的に拡大した。

また、平成14年度から、乳幼児とその保護者のための交流や子育て支援施設である「子育てランドあ〜べ」の運営をしてきており、これを運営するにあたり、契約等において法人格取得の必要性を感じ、平成15年3月にNPO法人格を取得した。法人化後においては、NPO職員及び有償ボランティアを合わせて40~50人がやまがた育児サークルランドの活動に携わるようになり、活動が飛躍的に拡大してきている。

サークルランドは、「子育てランドあ〜べ」の運営するにあたり、単なる子育て支援だけではなく、文科省事業の受託時の精神を貫き、特に、女性人材の育成の推進、再就職支援のための講習・講座の実施等、男女共同参画の視点や姿勢を盛り込んだ女性のキャリア形成支援につながる取組を推進してきていることが、大きな成果と考えている。

3 女性のライフプランニング支援総合推進事業

文部科学省においては、平成21年度から「女性のライフプランニング支援総合推進事業」を実施している。本事業は、約6割の女性が結婚・出産を契機に仕事を辞めている現状や、女性たちの結婚・出産後の働き方の希望と現実とに大きなギャップがあることなどに着目し、その原因として、人生のライフイベントに直面したときに、ともすると場当たりの選択を行っていることも一因と考えられることから、女性が主体的に働き方を選択できるよう、結婚、妊娠、出産といったライフイベントを視野に入れ、長期的な視点で自らの人生設計を行うことの支援を目的として実施している事業である。

本事業において、平成21年度及び22年度の2カ年にわたり、地域の男女共同参画センターや女性団体等に委託し、様々な機関等と連携した学習講座の

Ⅲ プログラム開発

実施、ライフステージに応じた学習プログラムの開発やワークショップの開催等の取組を行ったが、各団体が実施した事業の内容や成果について紹介する。

様々な機関等と連携した学習講座の実施

①女性のためのライフプランニング講座の実施（あおもり女性のライフプランニング支援連絡協議会）

20代から30代前半の女性を対象として、自らの人生における様々な「ライフイベント」を見据えた上で、長期的な視点に立って人生設計を行う力を身につけ、自己のキャリアを主体的に設計し、切り開いていくことのできる女性の人材育成を目指すことを目的として、4回にわたり「女性のためのライフプランニング」講座を開催した。

当講座のねらいとしては、青森県の若い女性が置かれている職場の現状や働くことへの意識を明らかにし、課題と課題解決のためのロジックモデルを作成、それに基づいた研修プログラムを作成して講座を組み立てることであり、青森県男女共同参画センターが事務局となり、青森市男女共同参画室、青森県キャリア・コンサルティング協会、青森県内の商工会議所、経営者協会、青年会議所等の企業経営者や労働組合等と連携を図り、講座の企画・立案、実施を行った。

当事業においては、ライフプランニング講座の研修プログラムの立案に当たり、協議会メンバーによるワークショップを実施して青森県の女性の状況を明らかにし、そのロジックモデル構築において、パートナー、世間、自分の意識、知識、ライフプラン、企業の観点から課題や問題点を整理し、アウトカムとしてのライフプランニング講座における解決策を見だし、研修内容に反映させている点が特色となっている。

当事業において、「ライフプランニング」という用語がほとんど認知されておらず、講座の参加者を募ることが大変難しい中、企業に個別訪問をして予定数を上回る受講者となった。青森県は中小企業が多く、伝統的な性別役

割分担意識がまだまだ強く、女性が企業の発展にどの程度貢献できるのか疑問を持つ企業が多いが、企業訪問により各企業の理解を得ながら、連携をして女性のライフプランニングの重要性の周知を図ることができたことが特筆すべき点と考えられる。

②女性のための「将来設計」プロジェクト（NPO法人参画プラネット）

近年、女性に対する支援の必要性に対して、社会の認識が高まり多様な形態の支援が進んできている。一方、それぞれの支援が実施主体者ごとに分断されており、支援を必要としている女性に必ずしも届いていないという現状を踏まえ、女性の年齢、立場、家族の状況等によりそれぞれの支援を統合し、一人一人の女性に届けることが重要課題ととらえ、名古屋城を中心とする愛知県内における若年女性・就職継続女性・再チャレンジ女性を対象として、「将来設計」を統合的に学ぶ場、地域と安心して「協力関係」ができる仕組み、アクセスしやすく「持続可能」な体制づくりといった視点から、①「将来設計」をテーマとした連続講座の実施、②連続講座の成果と課題から「協力関係」を形成するための提案書作成、③インターネットを活用した「持続可能」なポータルサイトの構築を行った。

まず連続講座においては、「自分を知る」、「社会とつながる」、「暮らしを護る」という3つの方向から学ぶ「将来設計塾」を行った。「将来設計塾」においては、若年女性・就職継続女性・再チャレンジ女性の3つのコースを設定し、一人一人の変化を捉えることができる内容のアンケートを実施しながら、最後に連絡協議会のメンバーとともに「将来設計」交流会を実施して、「協力関係」を構築するための機会を提供した。

成果として、連続講座におけるアンケート結果及び交流会で参加者から提供された社会資源情報をもとに、効果的な講座プログラムの作成及び地域との協力関係づくりについて、連絡協議会のメンバーとともに検討し「提案書」を制作するとともに、女性のための地域支援情報を発信し、それらの情報をもとに交流の交差点を構築し、地域での協力関係を継続するため、ポータルサイト「ウーマンみらい」を構築した。

Ⅲ プログラム開発

③希望のある子育て期をすごすための女性のライフプランニング（NPO法人働きたいおんなたちのネットワーク）

出産前を含む子育て期の女性たちを対象として、離職しないで働き続けることや、離職してもあせることなく社会に戻っていけるように、子育て期を見通すことができ、かつ、希望のある子育て期をイメージすることができるような女性のライフプランニングのプログラムを作り、親子ひろばや大学等の地域に出向いて、多様な生き方や働き方の選択肢やワーク・ライフ・バランスに関する情報提供等の事業を実施した。

当事業においては、企業（京都経営者協会）、行政（京都府男女共同参画課・子ども未来課、宇治市男女共同参画課・子育て支援室）、大学（京都文教短期大学）、民間団体（21世紀職業財団、NPO法人子育てを楽しむ会）等が連絡協議会を構成し、事業内容を企画したが、本事業のような趣旨で設置された協議会が地元にはなかったため、本事業により、男女共同参画課及び子育て支援の両方の行政、企業、就業支援団体、NPOが同じテーブルで意見を交わし、地域の在宅子育て女性にとって必要と考えられる取組を相互に伝達、共有する体制の構築を目的とした。

具体的内容は、①人生双六ゲームをしながらライフプランニングを考えるきっかけとなるような気づきのワークショップの開催、②企業や行政の連携協力による大学におけるワーク・ライフ・バランスに関する模擬授業の実施、③企業に勤める女性社員をロールモデルとしたキャリア支援に関する、大学での公開講座の開催、④大学の学生たちの描くライフプランニングを、子育て女性たちがアドバイスしながら進行する「子育てママと未来のパパママワークショップ」の開催を行った。

本事業は、行政、企業、就業支援団体、生き方・働き方支援や子育て支援NPOが同じテーブルで意見を交わして企画を組み立て、連絡協議会の委員が積極的に外部に出向くことにより、地域の子育て中の女性たちにとってトータルな支援への第一歩となったことが具体的な成果となった。また、子育て期の女性から、「今までは知らなかったけれども、ライフプランを考え

てみようと思う」などの気づきの感想が寄せられただけでなく、大学での公開講座において、男子学生が「子育てについて考えてみたい」とする感想も寄せられるなど、男性に対する波及効果が成果としてあった。

④女性のライフプランニングの学びとコミュニティカフェを拠点とした交流の場づくり（NPO法人せたがや子育てネット）

本事業は、主に学生を対象として、女性のライフステージごとの学びの場である連続講座を中心に、他の学生や社会人メンターとの交流の場づくりを行うとともに、事業を通して得られた学びを行動変容や具体的なアクションへつなげるため、学生の企画・運営によるライフプランニング講座を開催した。

また、ライフプランニング支援を総合的に推進し、各機関等との連携を図るため、企業、NPO、行政、大学、研究者で構成する連絡協議会を設置し、個々のフィールドにおけるライフプランニング支援の取組に関する情報提供、意見交換、事業推進に対する助言、提案、支援、評価などを行った。

具体的には、〈学びの場〉として、連続講座を実施し、「職業選択期」、「キャリア構築期」、「育児期・再チャレンジ期」の3つのステージを設定した。また、〈交流の場〉として、連続講座において必ず振り返りの時間を設定し、他の学生や社会人メンターと感想や気づきなどを振り返って共有できるようにし、言語化することで自己の理解を深め、多様な考え方に深く触れられるようにする。ここで〈社会人メンター〉が、各ライフステージにおける「先輩」の役割を果たし、生きた体験を語ることで、学生時代に思い描く理想と、様々な現実を伝えるとともに、社会人としての経験や有形無形のネットワークを提供し、学生たちの学びを支援した。

本事業は、大学生が社会人メンターと交流することや、カフェスタイルという、リラックスして自由に意見を言い合える空間作りを行い、一人一人が自己の考えやアイデアを発信し、人と人とがつながることができる場となるようコーディネートを行ったことが成果となっている。

Ⅲ プログラム開発

⑤地域の社会資源の活用のための「ライフプランニング手帳」の作成（NPO 法人関西子ども文化協会）

本事業は、20～40代の女性をターゲットに、仕事・子育て・介護の両立に向けて社会資源を活用しながら、家庭や地域で支え合うことを目的とした「ライフプランニング手帳」を作成し、学習プログラムの試行のためにライフプランニング手帳活用ワークを行った。

具体的には、まず、20～40代の女性を対象として、ライフプランを考える上で実際に生じる不安や課題を明らかにし、その軽減に向けてどのような情報や環境が必要かについてヒアリング調査を行った。このヒアリング調査をもとに、ライフイベントごとに生じる課題や不安に対応しうる情報や社会資源を明らかにし、ライフイベントに応じた情報の提示と、家族関係や地域の人のつながりマップ、自分を振り返るワークシートを入れて「ライフプランニング手帳」を作成した。

本事業の成果である「ライフプランニング手帳」を活用して、平成22年8月に国立女性教育会館で行われたNWECフォーラムでのワークショップにおいて、関西子ども文化協会による模擬講座の実践を行った。

女性のライフプランニング支援に関する学習プログラムの開発

①財団法人日本女性学習財団

同財団においては、自治体及び大学と連携し、女性のライフプランニング支援プログラムの開発研究を行った。対象・テーマについては、

- ・10代から30代の若年層を対象とした取組が手薄
- ・スキルやノウハウに主眼が置かれた講座が多く、長期展望の視点が弱い
- ・自分自身で選択していく力を培う学習支援が行われていない
- ・自分自身の課題に気付き整理するプロセスを支援する学習内容・方法が用いられていない

などの現状・課題を踏まえ、女性のライフサイクルを長期的に展望した中で設定し、学びや活動への枯渇感や社会との接点が希薄になることへの焦燥感

を抱える育児期の女性、自分に自信が持てずに壁にぶつかっている継続就業層、あるいは、非正規など不安定雇用層が抱える課題・ニーズや、若年層のキャリア形成への意識啓発などを視野に入れたプログラム開発を目指し、女性の多様なチャレンジに対応する学習支援のあり方を探求する内容を設定した。

具体的には、育児期女性対象のAプログラム（「子育て中の女性のためのキャリア支援セミナー」）、非正規雇用などの女性対象のBプログラム（「仕切り直し・巻き返しのためのライフプランニング支援セミナー」）、若年女性対象のCプログラム（「女子学生のためのキャリアしゃべり場」）の3つの学習プログラムを開発した。

Aプログラムの内容は、①ワークシートを使用した自己紹介及び子どもも自分も大切にしたいライフプランの作成、②ワーク「働き方別課題と対策」を通じた将来のライフスタイルのシミュレーション、③先輩に聞く私のチャレンジ、④「行動計画」シートによる自分らしい生き方・働き方を実現する計画の立案、となっている。

Bプログラムの内容は、①ワークショップⅠ（キャリアヒストリーを振り返り、自分の可能性を再発見する）、②ワークショップⅡ（現在の自分の状況を把握し、自分らしい生き方・働き方を考える）、③キャリアモデル体験談とグループワーク、④女性の就労の現状・課題の把握と自己の置かれた状況を客観的に把握するための講義及びグループワーク、となっている。

Cプログラムはさらに2つの内容に分かれており、Ⅰ-①自己紹介及びアイスブレイク、②キャリアモデルからの話題提供とグループワーク、Ⅱ-①就職への不安や可能性の相互理解のためのグループワーク、②ロールモデル体験談、となっている。

本事業においては、各ライフステージにおける具体的な学習プログラムについて、学習内容・方法のプロセスにおける課題を明確化し開発を行ったことが成果となった。

Ⅲ プログラム開発

②アラサー女子のライフプランニング支援に関する学習プログラムの開発

NPO法人男女共同参画フォーラムしずおかが事務局となり、大学、民間企業、就職支援団体等が研究会を立ち上げ、不安定な時代環境の中で、結婚、出産といった多くのライフイベントを控えた30歳前後の女性たちが、長期的な視点で自分の人生を主体的に選び取ることができるよう支援するための学習プログラム開発を実施した。

8回にわたる学習講座を実施し、①キャリア・デザインの方法（自己のキャリアを積み上げるために20代・30代のうちにすべきことをイメージする）、②自分計画の作成（アラサー女子特有の課題を明らかにし、今の自分を受け入れ認められるようにする）、③恋愛・結婚に関する知識・理解、④仕事と生活の両立に関する課題と解決策、⑤女性の年齢による身体的な変化についての知識・理解、⑥お金や経済的自立に関する知識・理解、⑦円滑な人間関係を築くコミュニケーション力の会得、⑧総括（具体的なライフプランニングの方向性を考え受講者同士がつながり合う）、となっている。

本事業においては、これまで、主婦層や高齢女性の利用が多く、働く女性の利用率が低いと言われてきた女性関連施設において、一般の働く若い女性が抱える問題に焦点を当てたプログラムの開発を行った点が事業の成果と考えられる。

③様々な困難を抱える若年女性自立支援プログラムの開発（横浜市男女共同参画推進協議会）

本事業は、平成21年11月に国のまとめた「新たな経済社会の潮流の中で生活困難を抱える男女に関する監視・影響調査報告書」において、若年期におけるライフプランニングを考えるための教育を、生活困難を抱える男女に対して充実させることが必要だとされていることを踏まえ、若年女性無業者の自立を支援するためのモデル・学習プログラムを開発することを目的として実施したものである。

具体的には、これまでに同協議会で試行的に実施した「ガールズ講座」を本格実施するとともに、終了後の調査や意見交換会を実施し、検討委員会を

設け、

- ・ガールズ講座の検証と改善
- ・多様な出口を視野に入れた講座終了後の支援のあり方の検討
- ・地域の支援機関の連携、ネットワークによる支援のあり方の検討

を行った。

プログラムの具体的内容としては、「支援のフェーズⅠ」「支援のフェーズⅡ」を経て、「出口」に至るというプロセスを想定している。本プログラムの対象者が様々な傷つき体験をしている人が少なくないことを踏まえ、「支援のフェーズⅠ」を安心感や自己肯定感の獲得のための支援、「支援のフェーズⅡ」を安全な環境の中での就労体験や試行による自己肯定感の強化と選択肢の増加のための支援と位置付けている。

「支援のフェーズⅠ」においては、「ガールズ講座」（パソコン+しごと準備講座）を実施し、スキルや情報を得るだけでなく、身体性の面から入り行動化を促進するため、体と心をほぐす、自分を大切にする、生活リズムを整える、孤立から脱するための講座を実施した。「支援のフェーズⅡ」においては、守られた環境の中での就労及び社会体験の場を提供し、男女共同参画センターやその他の機関において、「時間や約束を守る」「声をかけ合う」など社会生活に必要な基本的なソーシャルスキルを実習し、働く場で人と関わること、人とのつながりをつくることを体験する内容となっている。「出口」において、ライフプランニングを含め自己選択によって、活用できる資源を縦横に組み合わせて生活していくことを目指している。

④若年無業女性を対象としたライフプランニングに関する学習プログラムの開発（NPO法人「育て上げ」ネット）

若年無業者支援機関である「地域若者サポートステーション」の利用者の女性の占める割合は約30%であり、NPOなどの民間の若者支援機関の利用者の大半が男性となっている。社会的に孤立し、困難の状況にある若年無業女性が統計的に確認される一方、この層に特化した支援プログラムが少ない現状を踏まえ、働きたいけど働けない、働くことに希望が持てない若年無業

Ⅲ プログラム開発

女性に対し、長期のライフスパンの中で自らの生き方を主体的にとらえるようになるための「ライフプランニング」と、多様な選択肢を認知したうえで、各ライフイベントが起こる段階で、再度社会的、職業的困難に陥ることがないように、「キャリア形成」を一体で学習できるプログラムを開発した。

具体的には、15歳からおおむね30代までの女性を対象として、①自己理解・自己受容、他者理解・他者受容、ライフイベント・ライフステージの把握、②ゲーム形式によるライフイベント・ライフステージの疑似体験、③ゲームで疑似体験した人生を客観的にまとめることによる多様な生き方の理解、④進路選択とそのためのアクション考察、の4段階のプログラムを作成した。

4 今後の男女共同参画に関する学習機会の充実に向けて

以上紹介してきたとおり、「女性のライフプランニング支援総合推進事業」は、文部科学省がこれまで実施してきた女性の多様なキャリアを支援するための事業を「ライフプランニング」という視点で集約し総括したものであると考えている。すなわち、同事業においては、女性のキャリアを「職業キャリア」だけでなく、多様な選択肢が存在することの自覚を促すこと、その多様な選択肢を結婚・出産・子育てというライフイベントをきちんと意識した上で、長期的にどのように選択していくのかということをサポートすることを目指しており、いわば「見えない価値」を各人の意識の中で顕在化させることに資するものであると考えられる。

特に、各地域の女性団体、男女共同参画センターにおいて、地域における女性支援の資源を集約し、様々な機関と連携して、女性がどのような段階や状況におかれていても、必要な支援を受けることができる体制づくりも併せて行い、女性のライフプランニング支援のための学習プログラムを含め、当該地域全体において、女性のライフプランニングや多様なキャリアの重要性を各地域において広めたことが、この事業の最大の成果であったと考えてい

る。

今後の課題としては、今回委託して開発したプログラム等は、社会活動に関するものが少なかったので、特に、職業キャリアだけでなく、地域興しやまちづくりなど社会活動にかかるキャリアを含めたライフプランニングを学習するためのプログラムの開発が求められると考えている。

また、当初想定していた女性のライフプランニング支援は、ライフプランニングのための学習機会だけでなく、女性たちがどのようなステージに置かれていても、情報提供を含めて、各人の状況に応じた支援体制の整備までを想定していたが、なかなかそこまで到達することができなかった。このため、今後とも引き続き各地域の男女共同参画センターが中心となって、関係機関と一緒に、あらゆるライフステージにある女性たちを支援する体制の整備を検討、推進、構築していく必要があると考えている。

このように、「ライフプランニング支援」は、今後さらに広がり期待できる理念と考えられることから、女性の生涯学習やキャリア支援のための重要な概念として、今後引き続き、その推進方策の検討を強く望みたい。

(たかぐち・つとむ 放送大学学園総務部長

前文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課長)